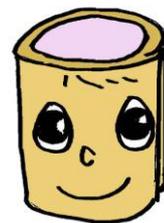


依存症相談拠点と 精神保健福祉センターの依存症対策事業

- 全国精神保健福祉センター長会の
依存症対策

第21回アルコール健康障害対策関係者会議
令和2年2月6日

全国精神保健福祉センター長会 常任理事 依存症対策委員長
横浜市こころの健康相談センター センター長



白川 教人

発表の内容

1. アルコール依存症の概況と相談拠点
2. アルコール健康障害対策基本法策定後の変化
3. 精神保健福祉センターの活動
4. 全国精神保健福祉センター長会の活動
5. 次期計画策定に向けての課題・要望

近年の依存症患者数の推移（NDB）

*近年のアルコール依存症患者数は、外来入院ともに増加傾向にある

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
アルコール 依存症	外来患者数	92,054	94,217	95,579	102,148
	(入院患者数)	(25,548)	(25,654)	(25,606)	(27,802)
薬物依存症	外来患者数	6,636	6,321	6,458	10,746
	(入院患者数)	(1,689)	(1,437)	(1,431)	(2,416)
ギャンブル等依存 症	外来患者数	2,019	2,652	2,929	3,499
	(入院患者数)	(205)	(243)	(261)	(280)

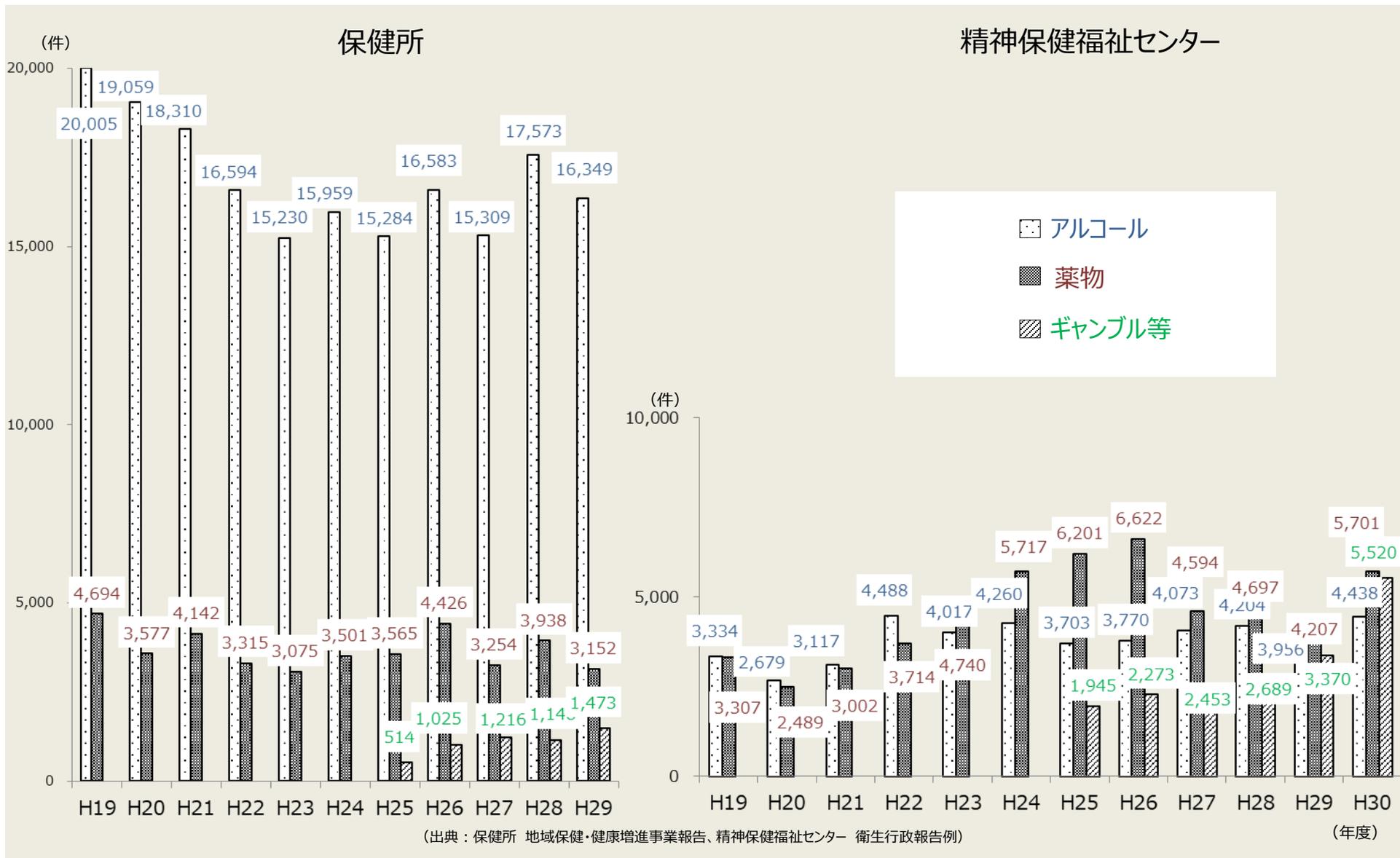
※外来：1回以上、精神科を受診した者の数

※入院：依存症を理由に精神病床に入院している者の数

※1年間に外来受診と精神病床入院の両方に該当した同一患者は、上記の外来と入院の両方の数に計上

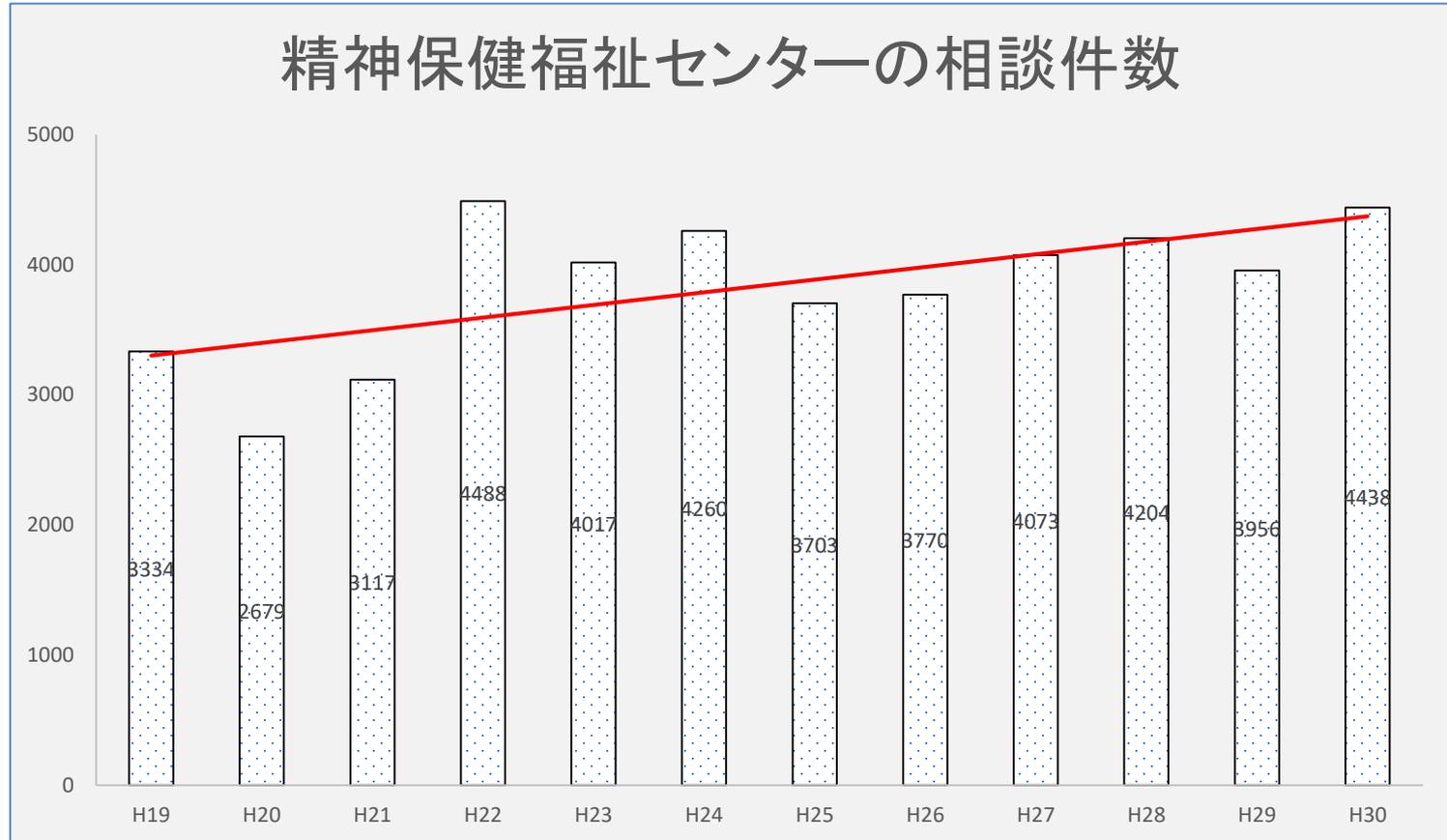
※出典：精神保健福祉資料：<https://www.ncnp.go.jp/nimh/seisaku/data/>
都道府県ごとのデータも把握可能。

アルコール、薬物、ギャンブル等に関する相談件数



※H22年度の調査では宮城県のうち仙台市以外の保健所、精神保健福祉センターは含まれていない。 ※ギャンブルに関する相談件数は平成25年度調査より把握している。

アルコール健康障害に関する相談件数



アルコール健康障害に係る相談拠点・専門医療機関

- ・相談拠点は51自治体、専門医療機関は46自治体（拠点33自治体）で設置（R2.1.31時点）
- ・令和元年度内に、相談拠点55自治体、専門医療機関52自治体（拠点42自治体）の予定

都道府県	相談拠点	医療機関	拠点
北海道	○保	○	○
青森県	○	○	
岩手県			
宮城県	R1	○	○
秋田県	R2		
山形県	R2	R1	
福島県	R2	R2	
茨城県	○	○	R1
栃木県	R2	R2	R2
群馬県	○	R2	R2
埼玉県	○	○	○
千葉県	○	○	○
東京都	○	R2	R2
神奈川県	○	○	○
新潟県	○	○	○
富山県	○	○	○
石川県	○	R1	R1
福井県	R2	R2	R2
山梨県	○	○	R1
長野県	○	R1	R1
岐阜県	R2	○	○
静岡県	○	○	○
愛知県	○保	○	○
三重県	○保	○	○
滋賀県	○保	○	○

都道府県	相談拠点	医療機関	拠点
京都府	○	○	
大阪府	○保	○	○
兵庫県	○	○	○
奈良県	保	R1	R2
和歌山県	○	R1	R1
鳥取県	○保医	○	○
島根県		○	○
岡山県	○	○	○
広島県	保	○	○
山口県	○	○	R1
徳島県	○	○	○
香川県	○	○	○
愛媛県	○	○	○
高知県	○	○	
福岡県	○	○	R1
佐賀県	○医	○	○
長崎県	○	R2	
熊本県	○	R1	R2
大分県	○	○	R2
宮崎県	○	R2	R2
鹿児島県	○	R2	R2
沖縄県	R2	○	
設置都道府県数	37	32	22
R1内	+1	+6	+7

政令市	相談拠点	医療機関	拠点
札幌市	○	○	○
仙台市	○保	○	○
さいたま市	○	○	○
千葉市	R2	○	○
横浜市	R1	○	○
川崎市	R1		
相模原市	○	○	○
新潟市		○	
静岡市	○		
浜松市	○		
名古屋市	○	○	○
京都市	○	○	
大阪市	○	○	○
堺市	○	○	○
神戸市	○	○	○
岡山市	○	○	○
広島市	R2		
北九州市	○保	○	R1
福岡市	○	○	R1
熊本市	R1	R2	
設置政令市数	14	14	11
R1内	+3		+2
	相談拠点	医療機関	拠点
計	51	46	33
(R1内)	(55)	(52)	(42)

※相談拠点の○は精神保健福祉センター、保は保健所、医は医療機関、区は区役所

※医療機関の数字は、機関数

※R1は令和元年度内予定

国が政令市に求める依存症対策と横浜市の取組（都道府県は + 推進計画）

横浜市では、国の定める依存症対策総合支援事業等に基づき、従来から、政令市に求められる取組を進めてきました。

法律・計画の体系

アルコール

アルコール健康障害対策基本法(H26)

アルコール健康障害対策推進基本計画(H28)

アルコール健康障害対策推進ガイドブック(H28)

神奈川県アルコール健康障害対策推進計画(H30)

薬物

薬物事犯の刑の一部執行猶予制度(H28)

再犯防止計画(H29)

第五次薬物乱用防止5か年戦略(H30)

ギャンブル

ギャンブル等依存症対策基本法(H30)

ギャンブル等依存症対策推進基本計画(H31)

神奈川県ギャンブル等依存症対策推進計画(仮称、今後制定予定)

政令市の役割

依存症対策総合支援事業(厚生労働省通知・H29)

下線は令和元年度の新たな取組み

国が示す事業内容		横浜市の令和元年度の実施内容
相談拠点の設置	地域支援体制推進事業	① 専門医療機関等の選定 ② 相談拠点の連携のあり方 ③ 地域支援計画
	連携会議	行政・医療・福祉・司法等、関係機関による会議開催(情報共有・研修計画調整)
	相談事業	依存症相談員の配置による相談実施
	普及啓発	病識の周知、社会資源情報の提供、相談場所の周知等
	研修事業	相談対応、医療、生活支援の従事者に向けた研修の実施
	回復支援	集団プログラムの実施
	家族支援	家族に向けた、家族会、家族教室個別相談支援の実施
	民間団体支援(事業補助)	民間団体の活動(ミーティング・情報提供・普及啓発・相談)に対する支援
	国が示す事業内容	横浜市の令和元年度の実施内容
	地域支援体制推進事業	県と連携し、県が選定 依存症対策検討部会にて意見 H30~
連携会議	回復施設訪問や個別支援等を通じた連携関係の醸成	
相談事業	依存症専門相談(ここセン) H29~ 精神保健福祉相談(区)	
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・広報よこはま(特集記事2回) ・ギャンブル等依存症啓発カード ・公共交通広告 ・特別相談会 ・パネル展示(市庁舎、中央図書館) ・家族向けセミナー(夜間に開催) ・かながわ依存症ポータルサイト記事 ・区の取組として講演会等 	
研修事業	これまでの研修に加え ・支援者向け社会資源紹介研修 ・リカバリースタッフ向け研修	
回復支援	回復プログラム(WAI-Y) H29~	
家族支援	家族教室(ここセン・区)(再掲)家族向けセミナー(再掲)依存症専門相談	
民間団体支援(事業補助)	民間団体補助金事業の創設 R1.10月~	

アルコール健康障害対策基本法制定後の変化

- 都道府県の推進計画が策定された
- 依存症相談拠点が増えた
- 精神保健福祉センターのアルコール依存症相談数が増加傾向になった
- 自治体の実施メニューが明確化された
- 基本法ができたことで各種依存症対策が推進された
- 全体の依存症対策の強化につながった

横浜市こころの健康相談センターにおける 依存症対策事業

当事者向け
回復プログラム
WAI-Y

個別相談
(面接・電話)

家族教室

普及啓発

人材育成

個別相談

個別相談の役割

- 専門職による個別の相談事業
- 本人、家族、関係機関への面接相談
- 適切な相談機関の紹介
- 回復のためのアドバイス
- WA I - Y や家族教室など、各種事業の紹介

平成29年度
アルコール・薬物・ギャンブル等
依存症相談窓口
横浜市こころの健康相談センターでは、アルコール・薬物・ギャンブル等の問題でお困りのご本人やご家族からの相談をお受けしています。

依存症 個別来所相談 (完全予約制)

- ◆専門の職員がご本人やそのご家族の相談内容を伺い、回復のためのアドバイスや適切な相談機関をご紹介致します。
- ◆相談内容などの秘密は厳守します。

<本人向け> 依存症回復プログラム WAI-Y

- ◆ワークブックを使って、アルコール・薬物・ギャンブル等の再発予防のためのスキルを学んでいます。
- ◆全8回のプログラムで、年に3期開催しています。

<家族向け> 依存症家族教室

- ◆アルコール・薬物・ギャンブル等の問題に悩むご家族のための毎月1回の家族教室です。
- ◆病院など様々な回復施設で支援に従事している専門家の話を聞くことができ、依存症について学ぶことができます。

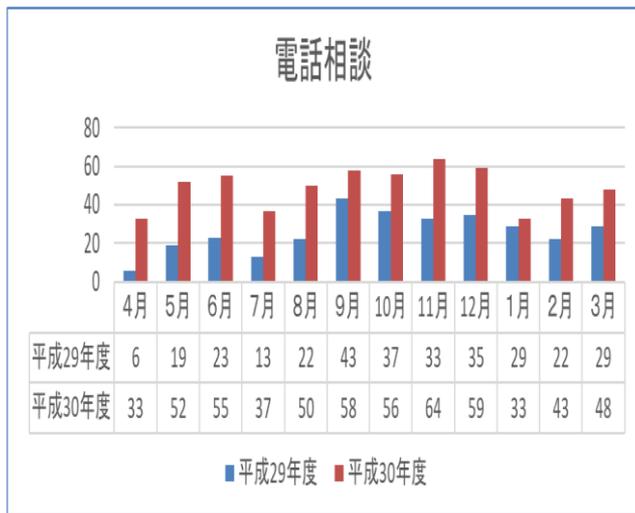
対象となるのは、自分や家族の依存症問題で悩んでいる横浜市在住のあなたや、横浜市にお住いの依存症当事者のことで困っているご家族です。

相談・参加は全て無料です。
初めて利用を希望される方は、まずは電話にてお問い合わせください。
担当者が相談内容を伺い、その後の流れをご案内します。

ご予約・お問い合わせ 横浜市こころの健康相談センター
電話: 045 (671) 4408 月～金 (祝日を除く) 9:45～17:00
FAX: 045 (671) 3525
横浜市中区日本大通1-8番地 KRCビル6階 横浜市 こころ

こころの健康相談センター—専門相談実績

面接相談（延べ数）



年間相談件数

H29：311件

H30：588件

月平均40～50件程度

R元年12月 625件

予測 833

年間電話+面接相談件数

H29

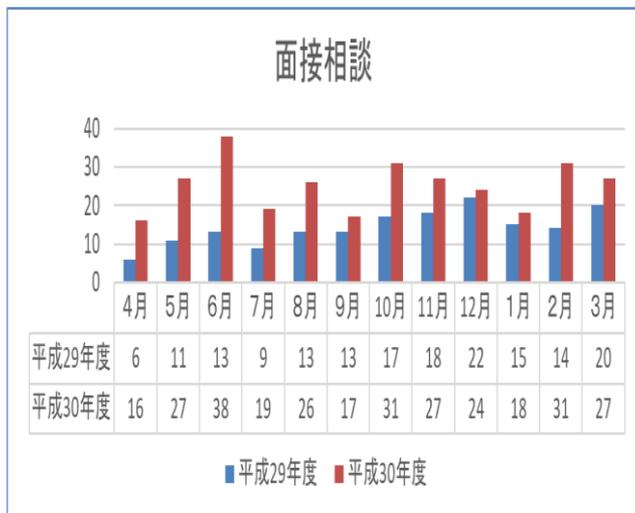
H30

R元年

482

889

予測1072



年間相談件数

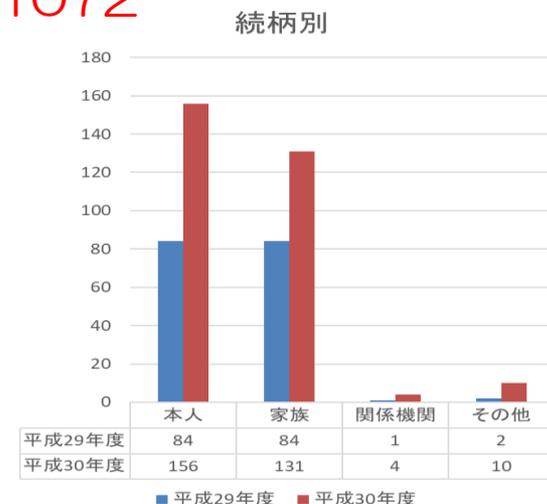
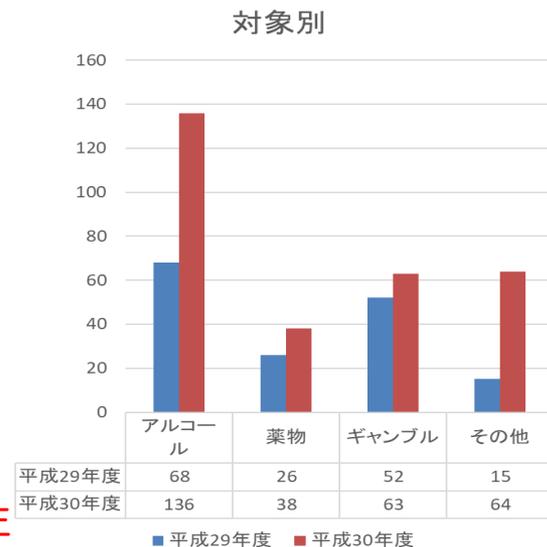
H29：171件

H30：301件

月平均20～30件程度

R元年12月 179件

予測 239



普及啓発

・アルコール関連問題啓発週間 11月10日～16日



市庁舎でのパネル展の実施

- ・市内依存症団体紹介
- ・依存症の普及啓発

- ・依存症リーフレットの配布
(区役所・医療機関・関係機関等)
- ・ホームページでの情報発信
- ・講演会
- ・図書館でのパネル展

家族のお酒の問題が心配なあなたへ

家族のためのアルコール依存症基礎講座

先着 60名
参加費 無料

お酒の問題が心配なあなたへ

家族のためのアルコール依存症基礎講座

アルコール依存症の回復と治療、家族の関わり方について、専門医が詳しく解説します。

出席してどんなときにするの？

依存症回復後と自覚グループってどんなところ？

本人が医師・社会資源に十分なために、家族ができることは何だろうか？

家族として本人へどのように関わればよいのだろうか？

講師 湯本 洋介 先生 (公益財団法人健康相談センター 精神保健認定 精神科専門医)

2006年に横浜大学医学部卒業。東京国立総合病院で初任研修後、精神科専門医研修を修了。6年間に勤務後より、依存症医療に携わる。2014年より独立行政法人国立病院機構久野川医療センターにて、アルコール依存症を中心に診療に従事。アルコール依存症患者へのマインドフルネス療法の導入や、お酒を減らすための新しいお酒消費の楽しみ方など実践的提案を続けている。

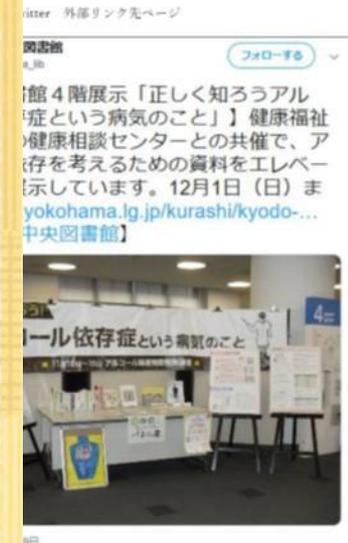
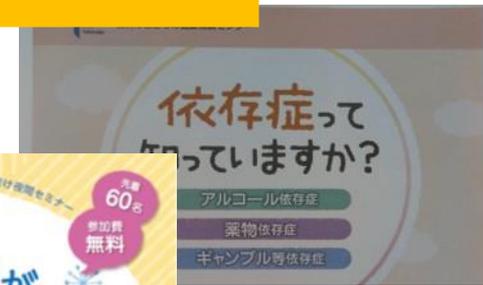
開催日時 11月20日(水) 19時～20時
(受付・開場は18時45分より開始)

会場 横浜市健康相談センター 1号室 (横浜市中区本町1-6)
〒222-0201 (横浜)
* JR東横線「日本大通り」1番出口から徒歩1分
* JR東横線「関内駅」南口から徒歩10分
* 横浜駅南口下街「関内駅」1番出口から徒歩10分

対象 お酒の問題を抱える当事者のご家族 (横浜市内在住の方)

定員 60名(予約不要、先着順)

お問い合わせ 横浜市の健康相談センター
TEL:045-671-4408 FAX:045-662-3525
HP:https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-ryo/kokoro/tonsho/



研修事業

令和元年度 横浜市こころの健康相談センター 依存症対策事業

依存症の社会資源紹介研修

通院？入院？その先は？

依存症の社会資源について知り、相談・支援に役立てよう

依存症の治療って
どこでしているの？

回復施設ってどうやって
利用するの？

AAと断酒会ってどう違
うの？

10月23日(水)

横浜市研修センター

13時30分～16時45分 403号室 (中区山下町72-1)

(開場 13時15分) ※裏面参照

- 【研修内容】
- ・ 依存症治療を行う医療機関・回復施設・自助グループについて情報提供します。
 - ・ つなぎ方のポイントなどについて学びます。
 - ・ 出席者には社会資源情報をまとめた資料を配布します。

※依存症についての講義はありません。

【申込締切】 10月2日(水) 16時まで

【対象者】 各区生活支援課、高齢・障害支援課、こども家庭支援課の職員

【定員】 45名

【申込】 各所属でとりまとめの上、メールまたは裏面のFAXにてお申し込み下さい。

【申込先・問合せ】

横浜市こころの健康相談センター 相談援助係 相澤・永田
電話：045-671-4455 FAX：045-662-3525
Mail：kf-kokorokensyu@city.yokohama.jp



- ※ 定員の関係で、全ての方が受講いただけない場合があります。
- ※ 旅費・職務の扱いは、所属でご判断ください。



令和元年度 横浜市こころの健康相談センター主催研修

依存症リカバリースタッフ向け研修

ーリカバリースタッフのセルフケアのための
動機づけ面接入門講座ー



公認心理師 株式会社ピーティシー 代表取締役
専門行動療法士 **岡嶋 美代** 先生



2004年熊本大学大学院医学研究科修士課程(医科学)修了。2005年国立病院機構菊池病院臨床研究部にて心理療法士、2008年和業会なごやメンタルクリニック心理療法士、専門行動療法士として勤務。2018年認知行動療法を専門とするカウンセリングオフィスピーティシーセンターを主宰。東京・名古屋・京都(ここてまる)を開業し、臨床・研究の場で活躍中。

日時

12月4日(水)

19時00分～20時30分
(開場 18時45分)

会場

会場を変更しました。
かながわ労働プラザ 第4会議室
(横浜市中区寿町1-4)

【研修内容】

リカバリースタッフとして①燃え尽きないための工夫、②バランスのよい距離の保ち方、③関わりを大事にする動機づけ面接的会話について学びます。演習を通して、参加者間の交流の場を提供できればと思います。

【申込締切日】 11月5日(火) 16時まで

【対象】 市内の依存症回復支援施設及び関連団体で、
依存症支援に従事する当事者・家族スタッフ

【参加費】 無料

【定員】 30名

【申込み】

各所属でとりまとめの上、メールまたはFAXにてお申し込み下さい。

Wise in Addiction In Yokohama

横浜版依存症回復プログラム



わい

わい

WAI-Yの役割

- 当事者を地域資源につなげ、社会復帰するための手伝い
- 同じ仲間と出会うことで、回復を目指すきっかけを作る
- 自分を客観的に見つめなおし、自己理解を深める
- 依存症のメカニズムを理解する
- 対処スキルを身につける
- 再発に備え、スリップを予防する



「もう二度とアルコール/薬物/ギャンブルをやらない」と心に決めたはずなのに、様々な理由でつい再開してしまったことはないでしょうか。

横浜版依存症回復プログラム (WAI-Y) は、テキストを使った再発予防のプログラムです。

—プログラム開催の概要(予定)—

日時：祝日を除く毎週月曜(全8回開催)

午後2時~4時

場所：KRCビル6階 面談室(※裏面参照)

費用：無料

対象：横浜市在住の方

第7期：2019年6月3日~7月29日

第8期：2019年9月30日~12月2日 ※各期とも同じ内容です

第9期：2020年1月27日~3月23日

【このプログラムで学べること】

- (1) 依存のメカニズムについて学び、再発の危険信号や合図に気づけるようになる
- (2) 回復への道のりや途中の各時期の特徴を理解し、新しい生活のイメージを持てるようになる
- (3) 「やりたい」気持ちが出た時にどう対応できるか、具体的なスキルを身に付ける

※プログラムは完全予約制です。

参加希望の方は事前にお電話ください

~参加の方のプライバシーは守られますので、ご安心ください~

あなたも WAI-Y に参加して、
新しい生活への第一歩を踏み出してみませんか？

メインプログラムと実績 8回1クール

- テキストの読み合わせ
- 課題と話し合い

体が反応する仕組みが作られたためです。私たちは、この仕組みを「条件づけ」、きっかけを「引き金」と呼んでいます。引き金については、後で学習します。



あなたが、アルコールや薬物、ギャンブルを始めてから、人に「性格が変わった」と言われたり、自分で「性格が変わったな」と思ったりすることはどんなことですか？

パブロフの犬の実験



はじめは、餌とベルの音をセットで与えます



各期6～8名前後 依存対象はさまざま（無料だからか？）参加率はとても高い！
“治療のお試し”としていかがですか？

	平成29年	平成30年
アルコール	9	13
薬物	3	3
ギャンブル	8	5
その他	0	3

合計

20

24



役割

※3月は公開講座にて実施

※述べ168人

- 同じ悩みを抱えている人と出会うことで、悩んでいるのが自分だけではないと知ることができる
- 安心できる場で自分の苦しみについて語れるようになることで、依存症者本人との関係を見直すようになる
- 依存症者本人への対応を学び、自分自身の生き方について考える機会をもつ
- 依存症の関係機関等を知る機会となる
- 平成29年度からは薬物以外の依存にも対応開始し、また専門職によるクラフトプログラムを開始

平成31年度 横浜市こころの健康相談センター主催

アルコール

薬物

ギャンブル

依存症家族教室のご案内

横浜市民の方を対象に、依存症家族教室を行っています。
このような悩みをお持ちの方が、参加しています。



同じ立場の人たちと、気兼ねなく話せる場所はないかしら？

家族が危険な薬物を使っているみたいで…



同じ立場のご家族同士、安心してお話いただけます。
『依存症』という病気について正しく理解し、どう対応したらよいかを共に考えてみませんか。

まずは電話でご相談ください。事前に別途個別相談でお話を伺いますので、日にちに余裕を持ってご相談ください。教室へのご参加は、個別面接相談の後になります。



【実施時間】午後2時～4時

【会場】こころの健康相談センター
中区日本大通18番地 KRCビル6階
(専用駐車場はございません。
公共交通機関をご利用下さい。)

【最寄り駅】

みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩2分
JR根岸線「関内駅/南口」徒歩10分
横浜市営地下鉄「関内駅/出口1」徒歩10分

【対象】家族の依存症問題で困っている横浜市内にお住まいの方、横浜市内にお住まいの依存症当事者のことで困っているご家族

予定については、裏面をご覧ください。

平成31年度 依存症家族教室予定表

日にち	内容	講師(スピーカー)
4月26日(金)	依存症とは ～本人向け回復プログラム(WA I-Y)の紹介も含めて～	こころの健康相談センター 医師・スタッフ
5月24日(金)	薬物からの回復とは ～横浜ダルクの活動について～	横浜ダルク・ケア・センター 施設長 山田 貴志 氏
6月21日(金)	依存症専門医療機関での治療について	久里浜医療センター 三原 心理士
7月26日(金)	クラフト家族勉強会 第1回 ※1	こころの健康相談センター スタッフ
8月23日(金)	ギャンブルからの回復とは ～ぬじゅみの活動について～	ケアセンター ぬじゅみ 施設長 田上 啓子 氏
9月27日(金)	クラフト家族勉強会 第2回 ※1	こころの健康相談センター スタッフ
10月25日(金)	アルコールからの回復とは ～横浜断酒新生会の活動について～	横浜断酒新生会 会長 広瀬 儀和 氏
11月22日(金)	ギャンブル依存症家族の回復とは ～ギャマンからのメッセージ～	ギャマン メンバー
12月20日(金)	クラフト家族勉強会 第3回 ※1	こころの健康相談センター スタッフ
平成32年 1月24日(金)	専門カウンセリング機関での支援	原宿カウンセリングセンター 高橋 心理士
平成32年 2月28日(金)	クラフト家族勉強会 第4回 ※1	こころの健康相談センター スタッフ
平成32年 3月27日(金)	【公開講座】 ※2 依存症専門医療機関での治療と家族の回復	神奈川県立精神医療センター 黒澤 文貴 医師

時間：2時～4時

※1 クラフトは、家族などを対象にした、依存症患者本人への関わり方や治療を勧める方法などを、テキストブックを用いて学ぶプログラムです。年間4回の講座で、基本的な家族の関わり方を学ぶことができます。

※2 3月27日の公開講座は、支援者や当事者の方も参加可能です。定員30名のため、申込多数の場合はご家族を優先させていただきますので、ご了承ください。

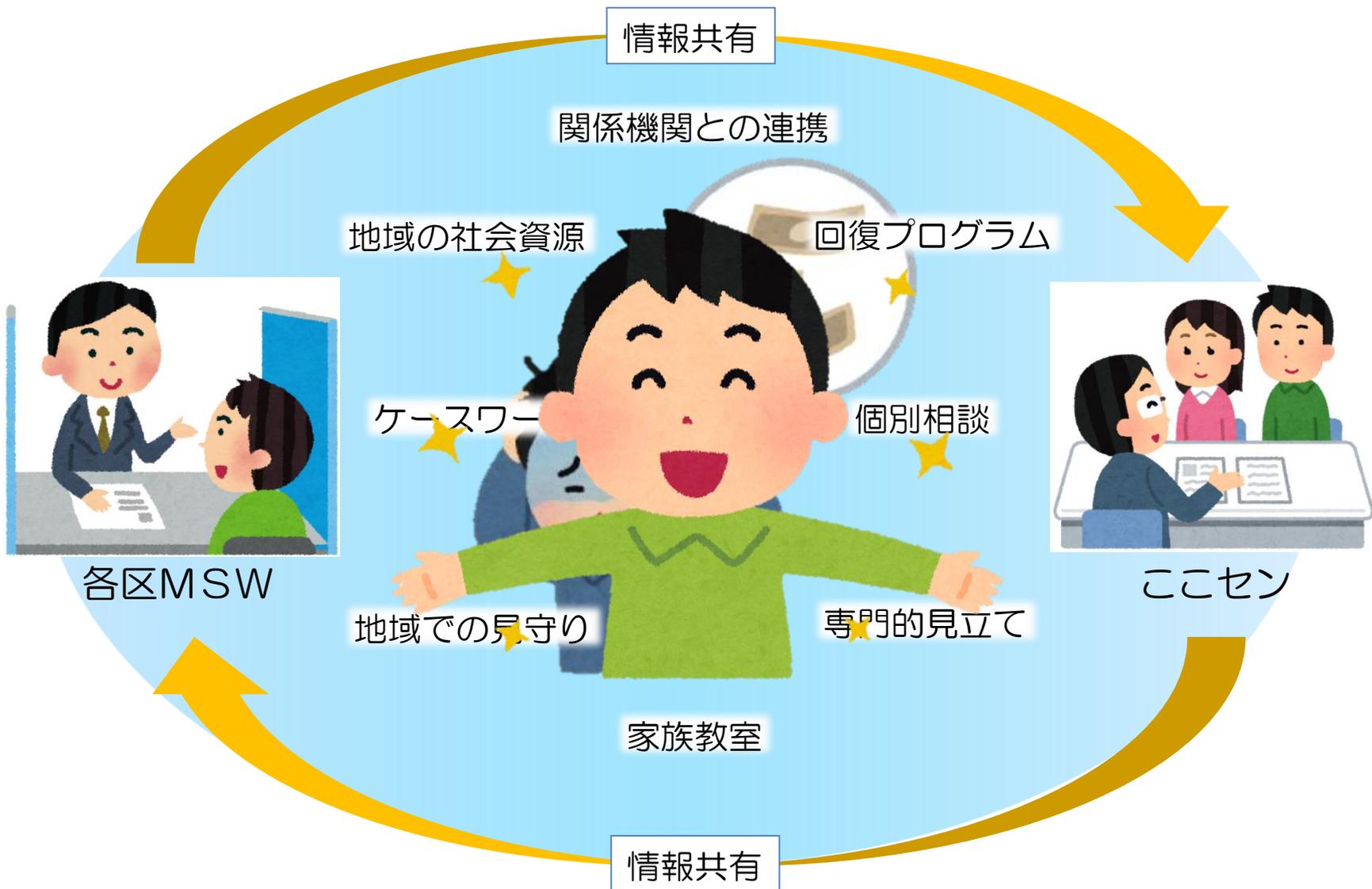
【問合先】横浜市こころの健康相談センター 依存症相談窓口
TEL：045-671-4408 FAX：045-662-3525

どの方からでも参加できます。
まず電話でお申込みください。相談員との個別面接後、ご参加いただけます。
内容は変更になる可能性もあります。あらかじめ御了承ください。

初めての方は、
まず、お電話で
ご相談ください



横浜市こころの健康相談センターと各区福祉保健センター（保健所支所）の連携について



長野県精神保健福祉センターのSBIRTS普及

長野県 アルコール健康障害対策 SBIRTSの普及促進セミナー

【主催】公益社団法人全日本断酒連盟
長野県精神保健福祉センター
【共催】NPO法人長野県断酒連合会

岡山市こころの健康センターの主な依存症対策

職域と協働した依存症予備軍対策

「おいしくお酒を飲むための教室」の内容

専門医による講義

- ① アルコールの歴史
- ② アルコールの影響
- ③ アルコール依存症
- ④ 適度な飲酒について

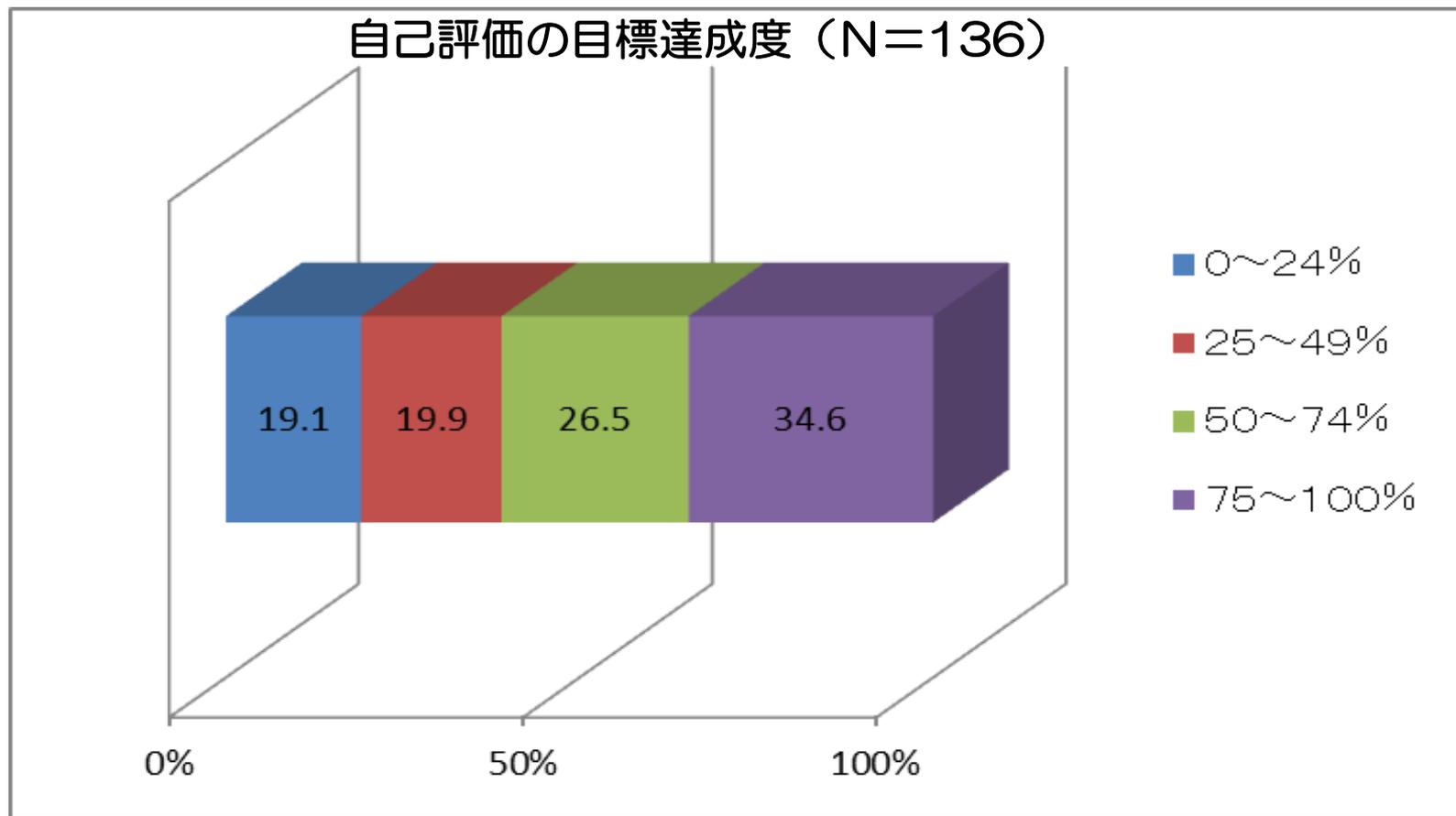
グループセッション

それぞれの飲酒状況を振り返り、アルコールの量・飲む回数・飲む時間などの低減を、自分で目標設定する

講義の様子



1回介入後介入46.2%に、飲酒量低減を認めた 6か月～1年後の参加者の目標達成度



介入6か月～1年後に、61.1%が目標達成
ができたと感じた

東京都の3(総合)精神保健センター(都立、中部、多摩)が依存症相談拠点に～R元年度～

○各拠点で取組を推進

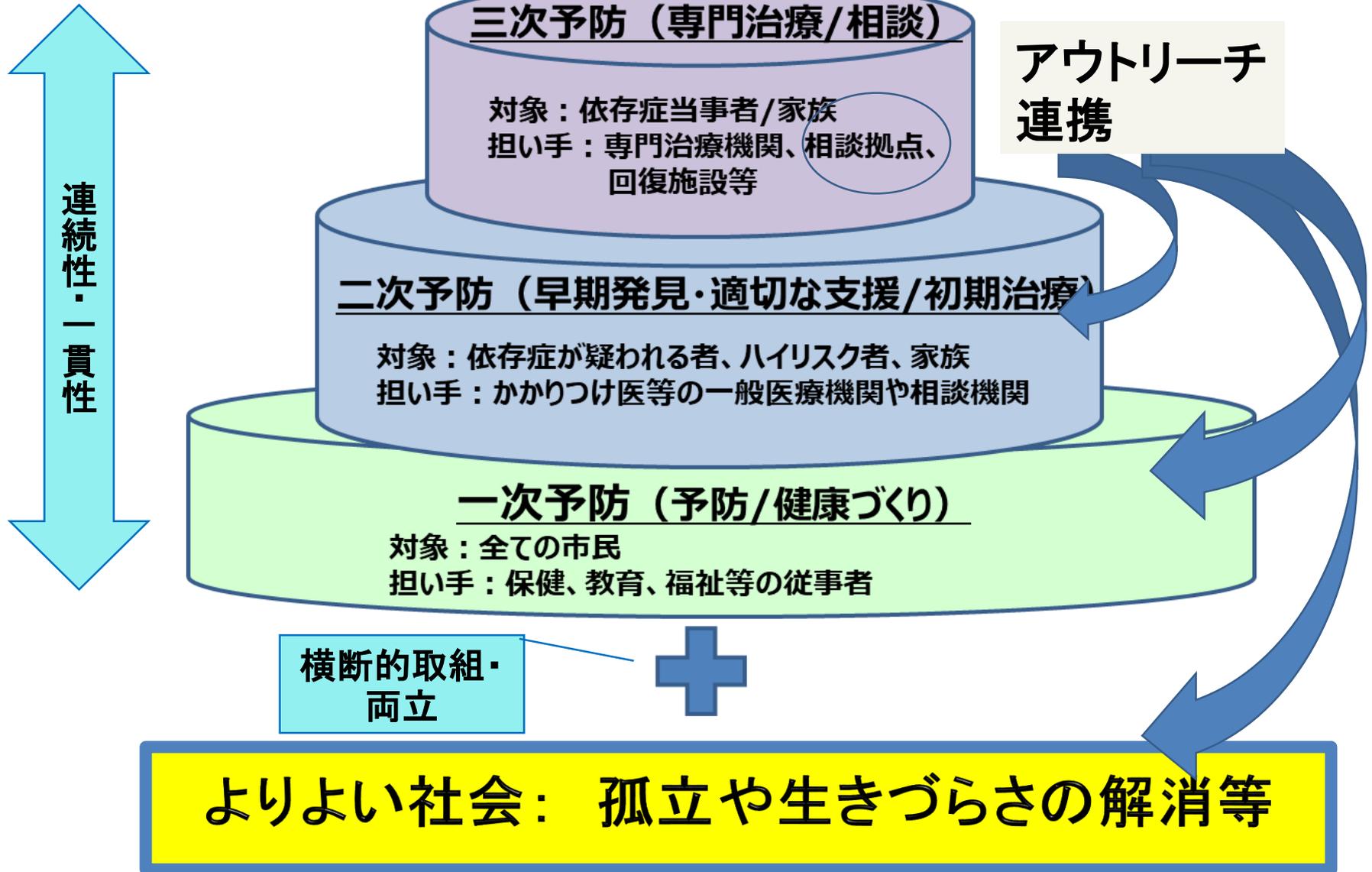
- ・相談(電話、面接、アルコール・薬物等家族向け講座、薬物等本人向け回復プログラム)
- ・人材育成(関係機関職員向け研修等)
- ・技術援助(保健所等の依頼に基づく依存症関連困難事例のコンファレンスにつき、出張による助言等)

○新たに行った主な取組～中部が中軸的～

- ・普及啓発(依存症に関するフォーラムを開催、リーフレット作成)
- ・連携会議(依存症者の支援等の関連機関が参加)
- ・調査(依存症治療を行う医療機関に関する都の調査への協力)
- ・プログラム開発と試行(ギャンブル障害本人プログラム(中部))、SAT-Gの試行(都立))

注:ここでの「依存症」は、アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症の総称。

相模原市精神保健福祉センターにおける 依存症予防



全国精神保健福祉センター長会の活動

- 依存症対策委員会(14センターが参加); 依存症対策推進・強化、調査・研究、人材育成
- 国の依存症対策委員としての参画
アルコール健康障害対策関係者会議委員; 白川
ギャンブル等依存症対策推進関係者会議委員; 小泉
ゲーム依存症関係者連絡会議委員; 白川
- 研究参加による人材育成と当事者支援
薬物依存; 松本班VBPへの参加、人材育成研修
ギャンブル障害; SAT-G普及と人材育成

自治体による薬物依存症支援のあり方と支援体制の構築に関する研究

研究分担者 白川 教人

- 前身の研究では、横浜、名古屋で研修を実施
- **生活保護担当ワーカー向け薬物依存症対応基礎研修**
- 1回目(全体3回目):9月27日@品川
⇒三河ダルク松浦代表、横浜ダルク山田施設長、愛知MHWC藤城聡所長
⇒参加者63名 アンケート回収64名
⇒うち、ワーカー54名 平均年数2.5年 薬物支援経験者32名
- 2回目(全体4回目):11月15日@福岡
⇒三河ダルク松浦代表、九州ダルク大江代表、愛知MHWC藤城聡所長
⇒参加者36名 アンケート回収36名
⇒うち、ワーカー31名 平均年数3.2年 薬物支援経験者18名
- 3回目2月3日京都

尺度の変化(東京研修)

F(2,150)	pre		mid		post		pre-mid		mid-post		pre-post	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	p値	効果量	p値	効果量	p値	効果量
DDPPQ全体	65.49	15.17	81.53	16.67	86.16	16.46	<0.01	1.01	<0.01	0.29	<0.01	1.31
知識とスキル	16.94	7.57	26.25	8.53	28.80	7.79	<0.01	1.15	<0.01	0.33	<0.01	1.54
役割認識	7.63	1.83	8.31	2.01	8.65	1.72	<0.1	0.36	ns	0.19	<0.01	0.57
相談と助言	10.47	4.73	12.33	4.00	12.96	3.86	<0.01	0.42	<0.05	0.15	<0.01	0.58
患者の役に立つこと	16.67	4.18	18.57	4.06	19.00	4.19	<0.01	0.46	<0.01	0.1	<0.01	0.56
仕事満足と自信	13.78	3.67	16.06	4.06	16.75	3.78	<0.01	0.59	<0.1	0.18	<0.01	0.79

ボンフェローニの多重比較のみ実施 リストワイズ削除し、n=51

尺度の変化(福岡研修)

F(2,90)	pre		mid		post		pre-mid		mid-post		pre-post	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	p値	効果量	p値	効果量	p値	効果量
DDPPQ全体	68.90	14.01	81.65	13.66	87.19	16.66	<0.01	0.92	<0.01	0.36	<0.01	1.19
知識とスキル	19.68	7.46	26.68	7.22	28.65	7.30	<0.01	0.95	0.06	0.27	<0.01	1.22
役割認識	8.16	2.08	8.10	1.68	8.32	2.10	ns	(0.03)	ns	0.11	ns	0.08
相談と助言	9.84	3.61	12.16	3.81	13.00	4.15	<0.01	0.63	<0.1	0.22	<0.01	0.81
患者の役に立つこと	16.65	3.76	18.61	3.17	19.77	3.63	<0.01	0.57	ns	0.31	<0.01	0.85
仕事満足と自信	14.58	3.03	16.10	3.17	17.45	3.63	<0.01	0.49	<0.05	0.41	<0.01	0.86

ボンフェローニの多重比較のみ実施 リストワイズ削除し、n=31

まとめ

- 2回で合計100名以上が参加し、そのうち大半が生保ワーカーもしくは指導主事であった
- 両研修とも、参加者の感想や心理検査から、とても効果的だったことが示された
- 生保ワーカーが依存症の専門知識を得る機会も当事者の話を聞く機会もなく、たいへんためになったという感想が大半であった
- 知識の習得＋回復者体験談＋ケース対応の研修内容は、大きな研修効果が期待できる

精神保健福祉センターにおけるギャンブル 障害支援の現状 (2017年度調査結果より)

- ギャンブル障害の相談を行っているのは全69の精神保健福祉センター(以下、MHWC)のうち、68か所
- MHWCにおけるギャンブル関連の相談は増加傾向
- 当事者向けの回復プログラムを実施しているセンターは13か所にとどまる
- 課題: 予算や人員の不足といった点のほか、担当職員の技術、利用可能な研修教材がないことが課題として挙げられた (片山、白川ら, 2018)

ギャンブル障害の保健・福祉的支援のあり方についての研究 第1報

片山宗紀1)、白川教人1)、田辺 等2)、小泉典章3)、小原圭司4)、櫻井善啓1)、馬場俊明5)

ギャンブル障害の保健・福祉的支援の在り方についての研究 研究分担者;白川教人

【目的】・全国のMHWCの専門職を対象に、ギャンブル障害に関する相談援助の体制充実のための研修を実施する

・その効果を検証し、全国のMHWCにおけるギャンブル関連相談援助体制の充実をはかる

【方法】

・島根県立心と体の相談センターが開発した、SMARPPをベースにしたギャンブル障害の認知行動療法プログラムSAT-G*の使い方、ギャンブル障害に関する基礎知識についての研修を横浜・福岡の2か所で実施

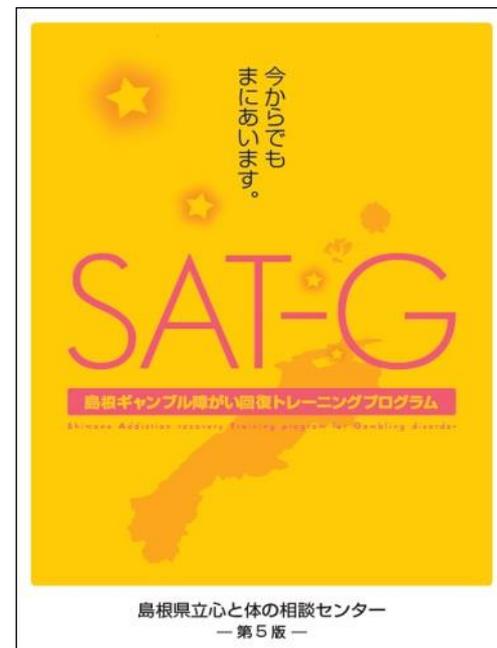
・講師は同センター小原圭司所長、佐藤寛志psw

* SAT-G (Shimane Addiction recovery Training program for Gambling disorder)

Shimane Addiction recovery Training program for Gambling disorder

SAT-Gとは

- ギャンブル障害に特化した
認知行動療法プログラム
- SMARPPを参考に開発
- **ワークブック**を用いて実施
- 全5回のセッションを月1回実施
- 目標は**利用者が決める**
- **脱落22人中1人と低い、効果3/4断G・残節G**



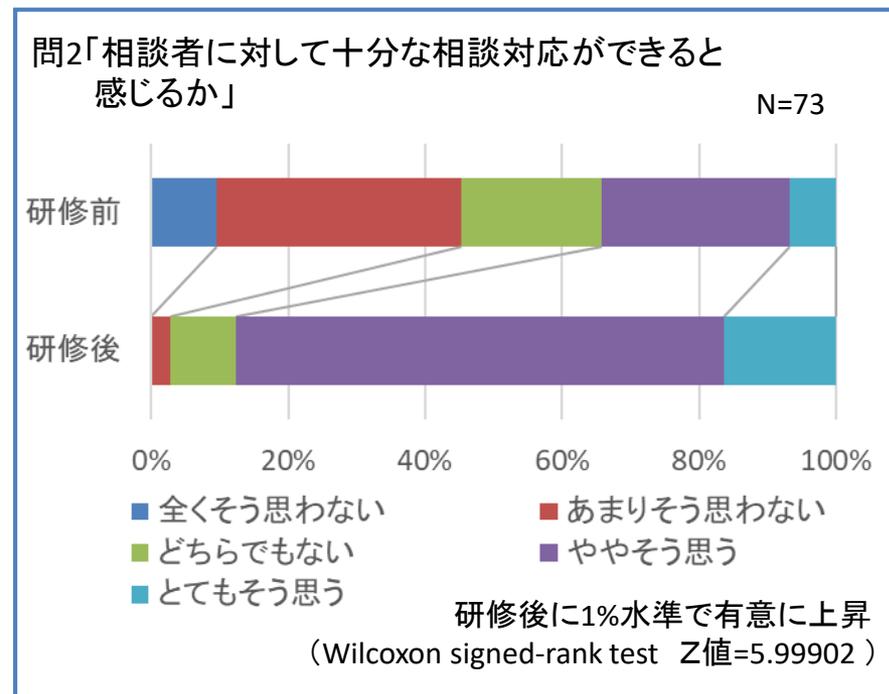
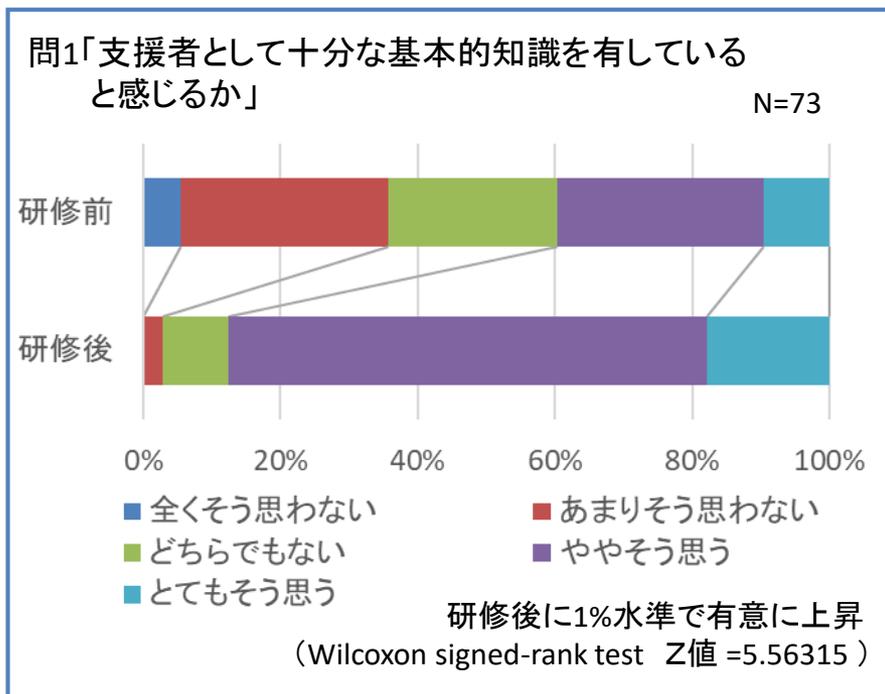
結果①ギャンブルおよびギャンブル障害に関する基礎知識

N=73

*Fisher's exact test

	研修前	研修後	P value*
(1) 2017年9月に厚生労働省が発表した「ギャンブル等依存症が疑われる者」は、生涯で何万人と推計されるか	49.3%	94.6%	<0.001
(2) 日本でギャンブル障害の当事者が行っているギャンブルで最も多いのは？	100.0%	98.6%	Ns
(3) 世界のギャンブル用の電子ゲーム機械のうち、日本が占める割合は？	42.5%	95.9%	<0.001
(4) 当事者がギャンブルをやめるために、最も大切なことは？	97.3%	97.3%	Ns
(5) 当事者で、自殺企図をするものは、生涯で何パーセント程度と言われているか(H19～21厚労データ)	38.4%	77.0%	<0.001
(6) 当事者の家族が相談に来所した時に、まず最初にするべきことは何か？	91.8%	97.3%	Ns

結果② 支援者として十分な知識・相談対応の技術を有していると感じるか



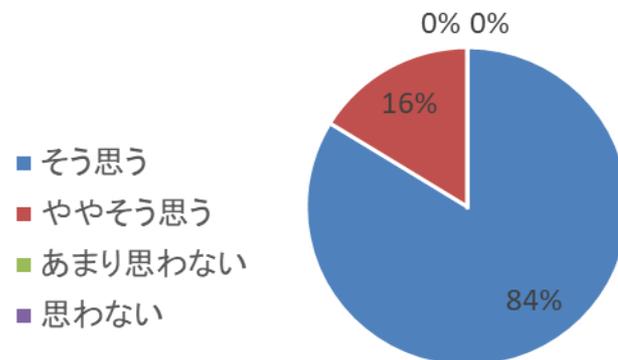
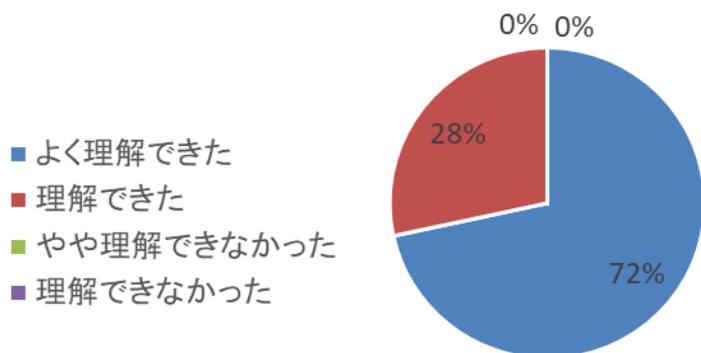
結果③: GGPPQの合計点および各下位尺度、 研修実施前後比較

	研修前		研修後		対応のあるt検定	Cohen's d N=59
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	p値	効果量
合計	84.16	18.03	103.75	15.07	<0.001	0.603
知識とスキル	25.59	9.08	35.10	6.69	<0.001	0.413
役割認識	9.49	2.10	10.39	2.03	0.017	0.081
相談と助言	12.29	3.91	15.00	3.03	<0.001	0.179
仕事満足と自信	17.81	3.80	20.68	3.54	<0.001	0.192
患者の役に立つこと	18.98	3.80	22.58	3.29	<0.001	0.241

結果④：SAT-Gの相談援助業務での活用可能性

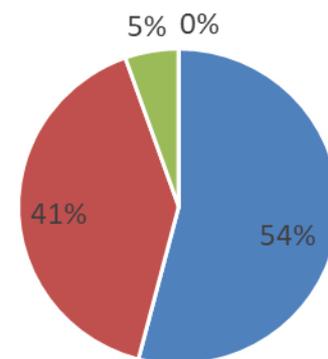
①研修は理解しやすいものでしたか？

②研修会は今後の業務に役立つと思われましたか？



③研修会を受けて、SAT-Gに対してどのような印象を持たれましたか？以下で最も近いものに○をつけてください

- この内容であれば、実施できそうだ
- この内容であれば、何とか実施できそうだ
- この内容であれば、実施するのはやや自信がない
- この内容であれば、実施するのは荷が重い



結論

SAT-Gを用いたギャンブル障害の精神保健相談・支援の実践研修は

- 知識を向上し支援態度を改善する
- 技術的な面での研修実施への抵抗感を減少させる
- さらに普及するためには、研修の継続、各センターの財源・人材の拡充が必要

現在の精神保健福祉センターの状況

- これまで6回の研修、300名越えの参加
- 69全精神保健福祉センターがギャンブル等依存症の相談対応をしている。
- 回復プログラムは、36センターで実施（H30. 12.1）
- SAT-G 62センターに普及
- ギャンブル等依存症への相談支援状況は整いつつある

各精神保健福祉センターの活動と 全国精神保健福祉センター長会の活動

- 各自治体の特徴・ニーズに対応した依存症対策を実施している
- 全国精神保健福祉センター長会の広域研修会は我が国の依存症支援の底上げに役立っている
- 今後も研修等を継続し依存症相談・支援の均てん化と技術向上を図る必要がある

次期計画策定に向けての課題と要望

- 高齢依存症の相談増加から高齢対策を
- 勤労者対策が弱いので産業保健の強化を
- 医学生がアルコール健康障害対策のことを知らない⇒医学教育強化を
- 産科医が以外にアルコール性胎児症候群などのことを知らない⇒ 医学教育強化と産科学会や母子保健への普及啓発強化を
- 相談業務の激増に加え、普及啓発や連携会議開催等の企画調整業務が増え、センターの人員体制の量的・質的強化が必要